

言葉尽きこれが最後になるかもと指震わせて
したためてます

いつ筆を置かねばならぬのだううかと目を閉
じ想う枯れた背中を

ぽっねんと転がる石すら何かに見立て意志を
与えろ昇華しろ詠め

韻踏んでズツコケそうだよひねうちやういつ

駆けることでなくなるかな

口ずさお豊かなリズムータンタカタンー日常
生活支障をきたす

短歌詠む言葉知ってはいるけれど君を愛する
言葉を知らない

筆を取り君の寝顔を詠もうかな君は未来をど
う詠むだろう

こちらの四百字詰め原稿用紙を使って、応募いただくことも可能です。ぜひ活用ください。
郵送応募の際は指定の応募申込用紙を同封のうえ、ご投函ください。